

Abstract

経済安全保障と勢力均衡—台頭する中国への反応—

長谷川将規（湘南工科大学）

台頭国に対して近隣国はどのように反応するのか。これを牽制する「均衡化」、これに迎合する「バンドワゴニング」（以下BW）、どちらの傾向が強まるのか。この問題は、勢力均衡をめぐる先行理論の中心問題であったし、東アジアの安全保障にとっても重要な意味を持つ。なぜなら、今日の東アジア諸国は、中国の台頭に直面しているからである。

しかし、先行理論は次の障害を抱えている。（１）各国の均衡化とBWに存在する「強弱」、各国がしばしば見せる均衡化とBWの「二面性」を考慮していない。（２）台頭国が経済を戦略的にどのように利用するのか、そしてそれが近隣国の均衡化とBWにどのような影響を及ぼすのか、という「経済安全保障」（安全保障のための経済的手段）の視点が欠けている。

本稿はこれらを改善する理論枠組みを提示し、中国の経済安全保障が東アジアの勢力均衡政治に及ぼす影響について考察する。

『国際安全保障』第39巻第1号（2011年6月）